

2025（令和7）年4月30日

会員各位

NPO法人常磐炭田史研究会

会長 野木和夫

通常総会及び研究発表会開催の件

若葉まぶしい常磐炭田ですが会員の皆様にはお元気でお過ごしのことと思います。

早速ですが先日4月26日（土）の理事会で審議の結果、下記の通り総会・研究発表会を開催します。会員各位にはご参集の上、各議案の審議をお願い致します。

記

1. 日 時 2025（令和7）年5月31日（土）13時より受付開始

2. 場 所 常磐共同ガス(株)三階会議室

3. 総 会 13時30分より14時50分まで

審議事項 議案（1）令和6年度活動報告

議案（2）令和6年度収支決算並びに監査報告

議案（3）令和7年度活動計画

議案（4）令和7年度収支予算

議案（5）役員改選

4. 研究発表会 15時00分より16時30分まで

■テーマ「虎の生涯 菊池寛実翁の思い出」

～裸一貫から石炭王、そして地域への恩返し～

■講師紹介 菊池寛実記念高萩炭礦資料館 菊地啓正氏



■研究発表会だけの参加でも結構です。滅多にない機会ですので是非ご聴講下さい。

講師やテーマは都合により変更する場合があります。

常磐炭田の近況

■石炭輸入の重要港湾小名浜港の3号埠頭（石炭埠頭）に4月27日、外航クルーズ船「リビエラ（総トン数6万6千トン）」が乗客約1,100人を乗せて入港。埠頭では地元の高校生によるブラスバンドやフラダンスチームが歓迎の演奏や踊りを披露しました。乗客は福島県内外を巡る観光ツアーに出かけたそうです。（「福島民報 4月28日掲載」）

常磐炭田地域を代表する名勝国宝「白水阿弥陀堂」や「ほるる」、「暮らしの伝承郷」などにもバスを連ねて観光しました。改めて明治20年、小名浜に木製栈橋を作って京浜地区に石炭を運んだ磐城炭礦(株)先人たちの頑張りに感謝です。

小名浜港に「リビエラ」

外航クルーズ船、初の寄港

外航クルーズ船「リビエラ（総トン数・約6万6千トン）」が27日、いわき市の小名浜港3号埠頭に入港した。外航クルーズ船が同港に寄港するのは初めて。26日に横浜港をたち、5月13日にカナダ・バンクーバーに着くクルーズの過程で立ち寄った。午前7時30

分ごろ、乗客約1100人を乗せて入港した。埠頭では歓迎セレモニーが催され、県観光PR隊「HAPPYふくしま隊」、いわき総合高吹奏楽部、地元のフラダンススクールが演舞や演奏を披露して出迎えた。県内外を巡る寄港地観光ツアーなどが行われた。県



小名浜港に寄港した外航クルーズ船「リビエラ」

花見山開花情報

リキウバイ	満開
シダレザクラ	散り始め
ツツジ	五分咲き
オオデマリ	五分咲き
カンザン	満開
ボケ	散り始め

は寄港に合わせて、3号埠頭を一般開放した。

■小名浜港石炭荷役のルーツは木製栈橋、波が高いと荷役は出来ませんでした。

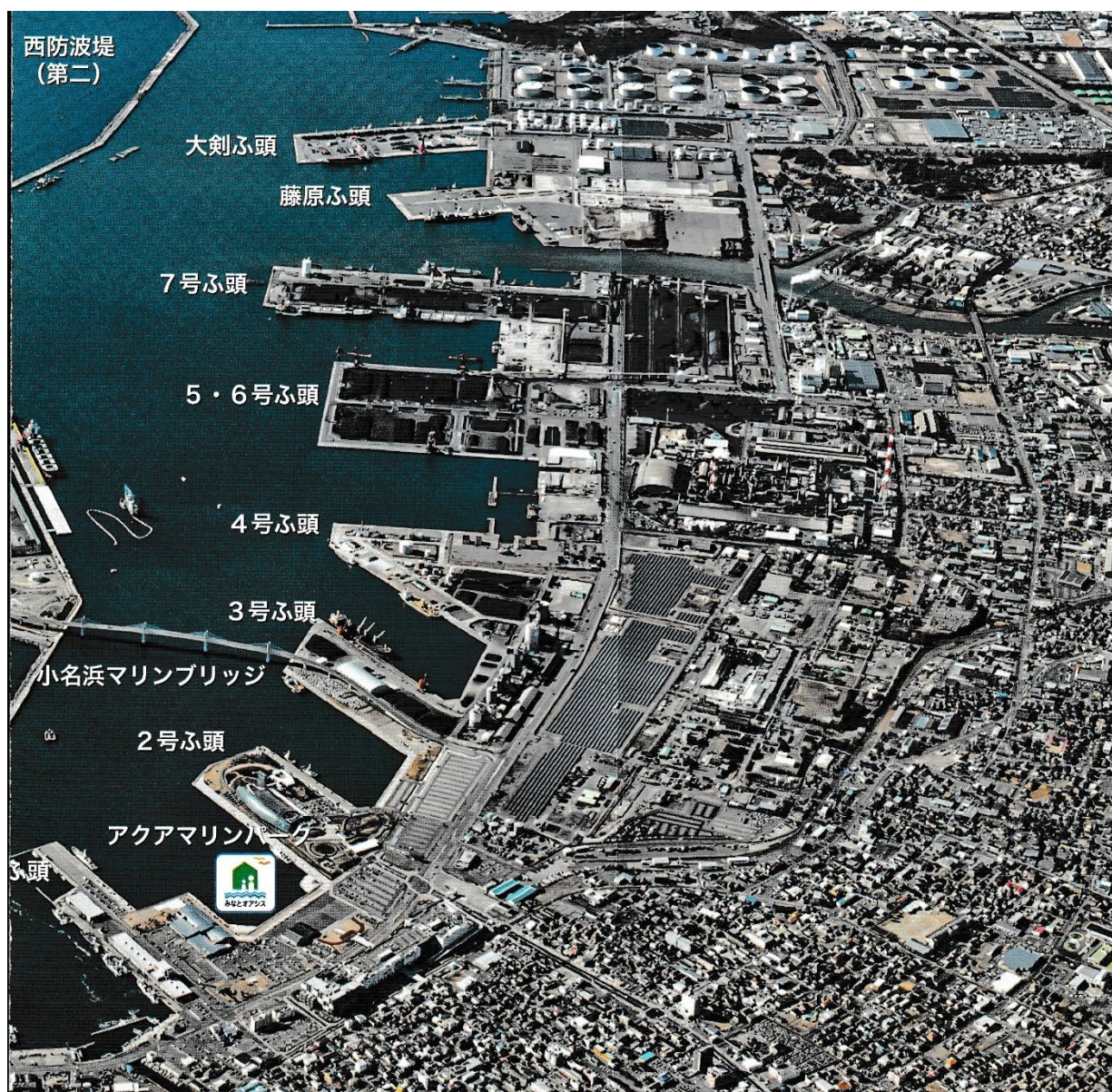


(左) 明治20年に敷設された磐城炭砒専用軌道の最終到達点小名浜埠頭。木製の栈橋に複線レール、石炭はここからは小舟で沖の帆船に積み込まれ東京へ運ばれた。水平線の青い海と白い雲は当時と変わらない。(当時の絵はがきより)

※絵はがきのカラー化 佐藤哲哉会員。

令和3年2月時点の小名浜港の航空写真(下)

石炭埠頭は3号、5・6号、7号埠頭と小名浜マリナブリッジを渡った東港地区



国土交通省東北地方整備局小名浜港湾事務所発行「小名浜港の概要」より